

トップアスリート就職支援事業

トップアスリート採用企業 事例紹介ミーティング記録

日時	令和元年 11 月 28 日 (木) 10:30~12:00
場所	プラザ洞津 2階 「飛翔の間」 三重県津市新町 1-6-28
主催	公益財団法人三重県体育協会、 三重県地域連携部国体・全国障害者スポーツ大会局
参加者	106 名 内訳：協力企業 60 名、競技団体 11 名、報道関係 2 名 参画者 33 名 [発表者 4、三重県体育協会 10、三重県 19]

	頁
内 容 1 開会挨拶	1
2 事業概要説明	3
3 採用企業事例発表①	6
チヨダウーテ株式会社 取締役 常務執行役員 管理本部長 種田貴志氏	
4 採用企業事例発表②	11
上野ガス株式会社・上野都市ガス株式会社 代表取締役社長 中井茂平氏	
5 採用選手事例発表①	18
あづまフーズ株式会社ロジスティック部 (レスリング競技) 河野隆太氏	
6 採用選手事例発表②	21
伊賀上野ケーブルテレビ株式会社技術部 (ボウリング競技) 梶田ひかる氏	
7 応援企業認定証交付式	23
8 閉会挨拶	23
(昼食)	

1 開会挨拶

三重県副知事 渡邊 信一郎

ご紹介いただきました、三重県の副知事の渡邊でございます。

本日はトップアスリート採用企業事例紹介ミーティングに本当に多くの皆様にご参加をいただきましたこと、心からお礼を申し上げますとともに、また皆様にご日頃、三重とこわか国体をはじめ当県のスポーツ振興にご理解ご協力ご支援

を賜っておりますことを心からお礼を申し上げます。

さて、三重とこわか国体まであと2年を切ってまいりました。本日、三重とこわか国体開催の667日前となりまして、これよりますます重要な時期になってまいります。開催準備につきましては、競技団体の皆様のご協力のなかで、開催を控えています全市・町ご協力のもと、また、各企業の皆様、団体の皆様、多くの関係の皆様にご理解ご協力をいただきながら、オール三重体制で準備を進めている次第でございます。

その中で、天皇杯・皇后杯の獲得が非常に重要なことであり、そのために、指導者の方の養成や確保、選手の皆さん自体への強化活動や支援をさせていただいています。

さらに本日このミーティングの中でも説明させていただきますトップアスリート就職支援事業がとても重要であり、かつ必要不可欠なものとなってまいり次第でございます。この事業を進めるにあたり、ご採用いただいております企業・団体の皆様と選手の皆様がWin・Winの関係の取組みになるようにこれまでも進めてまいりましたし、今後も進めてまいりたいと思っております。

ご採用いただいた企業・団体の皆様には、一体感の醸成につながった、チームワークの強化につながった、社会貢献をしている実感ができた、トップアスリートの皆さんは若くて元気、またスポーツを通じて自立性や責任感を養ってこられた素晴らしい人材の方々ばかりで企業の組織活性化にもつながったというお声もいただいております。

本日は、まさしく採用いただきました企業の皆様そして実際に採用され活躍をされております選手の方々に、それぞれの立場から現在の状況をお話しいただきます。皆様には本日の発表をお聞きいただきましてトップアスリート就職支援事業についてのご理解を深めていただき、ぜひともご協力を賜りますことを心からお願い申し上げたいと思います。

三重県としましてもこの三重とこわか国体・三重とこわか大会の成功に向けてしっかりと準備を進めてまいります。

結びにあたりまして、本日ご発表いただく企業の皆様、そして選手の皆様に感謝を申し上げますとともに、このミーティングがご参加の皆様にとりまして有意義なものとなりますことを心から願ひまして私の開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

2 事業概要説明

公益財団法人三重県体育協会 常務理事 城本 暁

それでは、事業の概要を説明させていただきます。

この事業は、厚生労働大臣の許可による無料職業紹介事業として平成27年度から開始し、トップアスリートの企業・団体への就職斡旋を進めているものでございます。

ここから、正面スクリーンのパワーポイント スライドで説明いたしますが、同じものを資料1として配付しておりますので、いずれかをご覧くださいませようをお願いいたします。

まずスライド番号2（資料1）の「事業の主旨」でございます。

令和3年の三重とこわか国体での天皇杯・皇后杯獲得が中心となる目的でございます。それに加えて先ほどの渡邊副知事の挨拶にもありましたように、企業・団体とトップアスリート双方にメリットが生まれる Win-Win 関係の構築も重視するものでございます。

次にスライド番号3（資料1）の事業進捗状況でございます。令和元年11月20日現在の数値でございますが、これまで求人側として協力いただく企業・団体数は、公表202・非公表17の合計219となっております。一方、求職側である採用選手の累計は、採用済70名、内定45名の合計115名でございます。

先ほど、この事業は企業・団体と選手の双方が満足できる win・win 関係構築を重視すると申し上げましたが、では、企業・団体にとってどのような win が考えられるのか。これについてスライド番号4（資料1）をご覧ください。

ひとつめは【社員・職員の皆さんの一体感の醸成】でございます。

スポーツには観ている人にも感動を与えるという不思議な力がありますので、普段一緒に仕事をしている選手が全国大会などで活躍すると、社員・職員の皆さんの応援する気持ちも高まることになり、ひいては一体感・団結心の醸成、ロイヤリティの向上、モチベーションの高揚に寄与することになります。

2つ目はスライド番号5（資料1）にありますように、【選手の優れた特性を業務に活用できること】でございます。

トップアスリートには、挑み続ける諦めない心、集中力、忍耐力、協調性など優れた特性があり、業務の成果にも結び付くことが期待されます。

3つ目はスライド番号6（資料1）にありますように、【地域貢献・社会貢献】

をアピールできるという点】でございます。

スポーツ選手を採用し支援することを通じて、地域貢献、社会貢献を重視する企業であることを、対外的にも、組織内にもアピールすることができますし、また、企業・団体のブランディングにも寄与することが期待されます。

4つ目はスライド番号7(資料1)にありますように、【組織活性化の契機となること】でございます。

ダイバーシティ、多様性の視点で見たとき、スポーツに特化して注力してきた若くて元気な選手、少し異質な人材が入社することで、他の社員・職員の皆さんの刺激となり、組織活性化のきっかけになることも見込まれます。

さらには、オリンピック出場級の選手であれば、広告宣言効果も期待できると考えられるものでございます。

続きまして、これまで企業・団体を訪問してきた中で、よくご質問いただく内容について、3点ご紹介したいと思います。

まずスライド番号8(資料1)のQ1この事業の対象となるのはどういう選手かということにつきましては、

基本的には大学の新卒者が対象であり、競技のレベルでは国体での得点を期待できる全国ベストエイト以内の選手を想定しております。

次にスライド番号9(資料1)のQ2三重とこわか国体後も、他県へ流出せず、勤務を継続するのかという点につきましては、

三重県庁において選手をスカウトしてくる際に、同国体後に三重県に根付くことが確認されており、多くの選手が勤務を続けるものと考えております。

三つ目にスライド番号10(資料1)のQ3練習や大会参加のための勤務配慮は、同国体後も必要なのかということにつきましては、

平日の通常勤務が可能な選手も多いわけですが、短縮勤務等の配慮をお願いする選手の場合でも、配慮いただくのは同国体まででございます。その後、競技を続ける場合は、仕事に支障のない範囲であり、練習や大会参加は、休日、有給休暇、勤務時間終了後等の時間を活用してということになります。これは、県職員である国体選手と同じでございます。勤務配慮が必要な期間は、来年3月卒業者であれば1年半程度、再来年3月卒業者であれば半年程度となります。

こうしたことを基本に、応用形も視野に入れつつ取組みを進めておりますが、最後のスライド番号11(資料1)に記載しましたように、この事業は企業・団体にとって先の4つのメリットが考えられるほか、人材需給がひっ迫する中、そ

の確保の機会ともなるものでございますので、ぜひ積極的なご協力を賜りますようお願いしたいと思います。

当事業に対するお問い合わせ先は、スライド 11 の末尾に記載してございますので、こちらへお願いいたします。

以上をもちまして、概要説明とさせていただきます。ありがとうございました。

3 採用企業事例発表①

チヨダウーテ株式会社 取締役 常務執行役員 管理本部長 種田貴志氏

皆さんこんにちは、只今ご紹介にあずかりました、チヨダウーテ株式会社の種田でございます。

私どもの会社について少しだけ紹介させていただきます。チヨダウーテ株式会社は三重郡川越町に本社を構える石膏ボード事業の製造販売の会社で、全国で展開をしている会社でございますが、一昨年トップアスリート就職支援事業のご紹介をいただいて、これまで2名の学生を採用させていただいております。この件につきまして、本日ご参考になるかわかりませんがご紹介をさせていただきたいと思っております。今しばらくお付き合い下さい。

私どもは、就職支援事業のご紹介をさせていただいて、2名の採用をしておりますけれども、一昨年、男子学生でバレーボールの選手、それから、今年の春4月にバスケットボールの女子学生を採用しております。2人ともたまたま三重県出身で、高校からそれぞれ実績をあげ、関西の大学に進学をしまして、そちらの方でも優秀な成績を残したのちに、2人とも地元に戻ってくるというお話があり、私どもに採用の機会をいただきました。この2人の学生とも、通常勤務の時間帯で働いておまして、仕事をしたあと、平日の夜、それから週末の土曜、日曜においては、練習、試合、遠征という形で働いていると聞いております。まだまだ、彼らとしては社会人生活が浅い中で、リズムを作るのにいろいろ苦労しているようですけれども、持ち前の元気さとガッツで、本当に社内の業務において中心的な役割を担っている状況でございます。

彼らに、入社してからざっくばらんな話をしたときに、何が学生生活の中で苦労したのか訊いたところ、彼らとしてはやはり、自分たちがトップアスリートとして練習や大会参加をチームとして取り組んでいる中であって、就職活動は気になるけれども、組織的に練習、試合をしていく以上、なかなか就職活動に時間を割いてまでやっていくことが難しかったと、ただ周りにはどんどん活動をして情報を仕入れていくのに、自分たちが取り残されてしまっていると焦りを感じていたようです。また、4年生になると最終学年ということもありまして、彼ら彼女らとしましては、自分たち最後の代で優秀な成績を収めたいという思いもあります。

特に、今年入った女子学生の場合は、キャプテンということもあってチーム

をまとめていかななくてはいけない、なかなか結果も出ない、その中で退部したいという学生がいたのを引き留めなければいけないといういろいろな苦勞を抱えてチームをまとめていかななくてはいけない立場にあつて、就職活動もしないといけなけれども、なかなか取組めない。また、自分の同級生たちは、体験研修のようなかたちでいろいろな企業の就職活動に参加をしている。そのような中で、自分としては進路についていろんなことを考えたいけれど、そこまで気が回っていかなかった。そういった焦りを感じていたと話していました。

そのよう中で、就職支援事業については、学生にとって希望の条件を出して、それを会社側とWin・Winの形でマッチングするという意味では、極めて学生にとって有利な制度だったのではないかと、会社側としても判断をしているところでございます。

では、一方で会社としてどうだったのかというところについてでございますけれども、ここについては、配付資料4「2019年度トップアスリート就職支援事業」の求人側の企業・団体にとってのベネフィットというところにもございますし、ただ今常務理事の方からもお話がありましたけれども、特に1番目に「スポーツには観ている人にも感動を与える不思議な力があります。社員の皆さんの一体感、チームワークの醸成、ロイヤリティの向上、モチベーション、意識の高揚に寄与します。」と記載されているように、まさにこの効果が会社にとっての大きなメリットになっているのではないかと思います。

皆様のご記憶に新しいと思いますけれども、先般のラグビーワールドカップで、スコットランド戦の後に福岡選手がインタビューに答えて、全ての時間を犠牲にして試合にかけてきて勝ったということについてコメントされたことがネット等でも非常に話題になりました。まさにトップアスリートの皆さんが試合で、当然勝ち負けというものはありますけれども、ひた向きに頑張っていくその姿勢、取組みは、受入側の企業としてみると、周りの社員に対してモチベーションを高めていく触媒になっているのではないかと感じているところでございます。

そしてもうひとつ、なぜそういったトップアスリートの選手が企業に入って評価を受けるのかということについて、私なりの経験も含めて感想としてお聞きいただければと思います。

私もトップアスリートではありませんが、学生時代ミドルアスリートくらいのレベルでありましたけれども、学生時代のほぼ大半をスポーツに費やしてき

た経験からすると、自分が今まで歩んできた人生において何が評価されてきたのか、何が周りにいい影響を与えてきたのかということを考えるにあたって、自分なりに3点あるのではないかと感じているところがございます。これについても文章としてはお手元の資料で、選手個人の仕事に対する力量というところで記載がされているところではございますけれども、私としてはその中で特に3点をあげたいと考えています。

まず1点目はコミュニケーション能力です。コミュニケーション能力とはいろいろな意味合いがございますが、大学生活においてトップアスリートの皆さんが、上下関係で4年生～1年生という関係だけでなく、基盤がしっかりとしたOB組織というものが当然あるわけですから、そのようなOB組織との連携、報告のためにOBのところに訪問していく、そのような年代、世代を超えた幅広い層とのコミュニケーション能力がおのずとついてきているのではないかと私が通常の生活をしてきている学生とは大きな違いになってきているのではないかと私なりに感じているところがございます。特に4月に入った女性の場合は、そのようなスキルもたけていると見受けられます。私どもの会社でいいますと、50代の先輩の女性社員がおりまして、いつも新入社員に対して、ヘアスタイルや身だしなみ、爪の手入れなどの指導を事細かく注意をする、それはそれで会社としても文化ですのでありがたい話ではありますが、そのようなことに敬遠しがちな社員がいて相手にするのが億劫になってくるとか、その人と関わりあいたくないというような雰囲気が出てくる場所ですけれども、彼女に関しましては、そのようなことを全く意識していないような振る舞いの中でそうした先輩社員と普通に溶け込んで喋り相手をしています。こうしたところを見ると、彼女はOBなどとの付き合いも含め人の懐へ飛び込んでいくことにたけていると感じる次第でございます。そのようなことをコミュニケーション能力とっていいのかは別として、そのような力が備わっているのではないかと考えております。

2つ目においては、忍耐力と粘り強さがあげられるのではないかと思います。試合において結果がなかなか出ない、それから周りの支援者からのプレッシャー、コーチ・指導者からのハラスメント的なことまでは申し上げませんが、そのような厳しい指導の中で、いかに自分としての成果を出していくために取り組んでいくかという力は、忍耐力と粘り強さによって培われていくのではないかと感じているところがございます。これは、トップアスリートに限

らず、いろいろな世界においても通じる事柄ではないかとは思いますが、成果を出すために最後まで諦めない、今ここで結果が出ていないところにおいてもそれを乗り切っていこうとする粘り強さというものが、トップアスリートへの会社側からする評価の2つ目ではないかと思えます。

最後3点目です。これが私は一番重要でかつ、彼ら彼女らに備わっていて会社として受け入れてよかったなと感じていることでございますけれども、それは規律性。先ほども「規律」という言葉は出ていますが、やはり規律性は、組織においては極めて重要なのではないかと考えているところでございます。強い組織、強いスポーツチームそれらにおいて、規律性が高いということが、成果に結びつくためのスタートではないかと考えています。何が規律性かというと、1つは基本に忠実であるということ。これはまず大前提だと思っております。私どもの会社において、スターはいません、そして、トリッキーなプレーで結果をだして営業成績を上げるというようなことも不要です。まずは基本に忠実な動きをするということが求められる。それは、トップアスリートの皆さんも認識していることではあると思っておりますけれども、キャッチボールやトスといったものを、普通にやるのではなく真正面で受け止める。真正面へ入っていく体の動きなど基本の忠実さを体得しているところの規律性です。また、強いチームにおける規律性とは、勝つために約束事、取決めが徹底されていることだと私は思っております。それはスポーツの世界に限らず、会社の経営においても同様だと考えております。この規律性が会社からトップアスリートを評価する最大のポイントではないかと思っております。トップアスリートの皆さんは、3点申し上げてきたような事柄を、意識をしないうちにおのずと体得してきている。それがやはり、結果として動きに出ることで、企業組織に入ってもそれが周りに対していい影響を及ぼしている。それが評価されているということではないかと思っております。

私ども企業にとっては、こうした基本に忠実な規律性のある社員が今までの既存の社員が中だるみしているところを、いい意味でのモチベーションを上げるうえでの、起爆剤になっていると感じているところでございまして、そうしたところをマッチングしているこの就職支援事業というのは、Win・Winの関係になっていく、大きな役割を果たしていると考えているところでございます。

令和3年の三重とこわか国体に向けてのトップアスリートの皆さんのご準備

はいろいろ大変だと思います。私どもとしては、入社した社員、また、今後機会があり採用する社員がいる場合において、そのような社員が天皇杯・皇后杯を獲得することに少しでも貢献をし、それに対して、企業として社員一同応援をしていく。そのような形でこの国体の成功を私どもとして全力をあげて支援していきたいと考えております。

就職支援事業を本当に我々としては評価しているところでございまして、このような認識がより皆さんに広まっていき、学生の皆さんにおいてもこのような仕組みをご理解いただければと感じております。私のつたない説明がどれだけ参考になるかわかりませんが、ぜひご理解いただければと思います。説明は以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

4 採用企業事例発表②

上野ガス株式会社・上野都市ガス株式会社 代表取締役社長 中井茂平氏

皆さんこんにちは。伊賀から参りました、上野ガスの中井と申します。

20分ほど機会をいただきました。お付き合いよろしくお願ひいたします。

それでは、早速でございますが話を進めさせていただきます。先ず、こういったお話の場を設けていただきました県体協の皆さん、あるいはとこわか国体関係の皆さん、どうもありがとうございます。小さな会社でございますが、せっかくの機会でございますので一生懸命させていただきます。よろしくお願ひいたします。

【スライド番号1（資料2）】

先ずは、このパワーポイント、伊賀のものでございますが、一番左が伊賀鉄道で松本零士さんデザインの忍者の電車でございます。もう20年近く走っております。その次が松尾芭蕉、伊賀肉、これは松阪にも負けないような素晴らしいお肉でございます。あと、上野城です。そして伊賀上野の天神祭り、あとちょっと会社の話になりますが弊社のガス展です。伊賀は9万2千人くらいの人口のまちでございますが、ガス展に3日間で1万5千人ほどおみえになるということで、できるだけ楽しいガス展を心がけています。いきなりですが、なぜ（忍者の姿をした）この人たちがいるかということ、これは三重大のドイツから来た留学生で、定期的に私ども会社の雰囲気を変えるためにインターンシップを受け入れております。また、伊賀上野ケーブルテレビにも受け入れたらせてもらっています。あとは伊賀の忍者フェスタとか、そして、今日お話の中心になる脇屋さん、あとこちらは梶田さんで、NHK杯優勝されたボウリングの選手でございます。あとでまた10分ほどお話しいただくのですが、何ら梶田さんとは打合せをしておりませんので、どのような話になるか、齟齬が出るかもわかりませんがご容赦ください。

【スライド番号2（資料2）】

そして皆様にお話し申し上げるのは、伊賀市上野ガスグループのご案内ということですが、先ほど伊賀市のご案内はさせていただきました。そして、なぜアスリートを採用したのか、会社の対応、地域とともに歩むというところがございます。次行きます。

【スライド番号3（資料2）】

上野ガスグループのご案内ですが、県内の皆様なのでご存じだとは思いますが、あまりご存じない方もいらっしゃるかもしれませんので、会社の概要を少しだけご紹介させていただきます。伊賀市において都市ガス、LPガス、電気、宅配水、放送、通信、インターネット、電話等のライフライン、これは子会社も併せてということでございます。そして親会社が上野ガスで中核はLPガス事業でございます。グループ会社が上野都市ガス、こちらが発祥なのですが創立93年です。上野ハウスが建築業で50年、あと同じく、アスリートを採用いただいている伊賀上野ケーブルテレビ、こちらは来年で30周年。あと奈良に加藤商会とか、地元のアポロ興産、あとガス配送センターとかドリームリフォーム、合同保険というように、ライフラインとソフトラインの両方を兼ね合わせて私どもが事業をさせていただいて、伊賀の方々、あるいは亀山、名張の方々がお客様となっています。グループ全体では、300名弱の会社ですが、小さな会社の集まりということをご理解いただければと思います。

【スライド番号4（資料2）】

そしてなぜアスリートを採用したのか。一応三重県体育協会からの依頼。これはオフィシャルです。地元の商工団体、工業会などいろいろなところで、機会があればこちらにおみえいただいて、ぜひ登録してほしいと依頼があり登録をさせてもらいました。そうしますとある日、東地さんと、田中幹也さんが突然会いたいということでした。弱みではないですけど、東地さんは元防災の担当の部長さんでガス会社として大変お世話になった方です。田中幹也さんも伊賀市のゆめぼりす伊賀の立地企業連絡会と企業誘致のほうで大変お世話になった方ですし、ぜひとも中井さんのほうで1人良い人がいるので受入れをということでありました。その後、城本さんもいろいろフォローしていただいておりますが、私自身はアスリートにつきましてはそう違和感はありませんでした。なぜなら、今の会社の前の会社が都市対抗野球を抱えている会社で、彼らはいつも東京の等々力（とどろき）というところのグラウンドへ練習に行くのに昼からみんな職場から消えるわけです。「まあそういう人もいるのだなあ」と思っていましたし、社宅等はその人たちと一緒にしたから、大変楽しく和気あいあいとさせていただいていたので、あまり違和感はなかったというのが1つあります。

もう1つは伊賀上野ケーブルテレビにも元伊賀FCくノ一サッカー選手の社員もおみえになったので、そちらも違和感がないということと、確かに先ほど城

本常務さんの説明では、Win・Winということでしたけれども、企業として宣伝効果があるかないか私は正直な話あまり考えてはございません。若い人の人生、少しお手伝いできればというところが大事かなと思っております。

面接しないとわからないですね。やっぱり履歴書だけでは全然わからないです。本人の考え方、どこまでしっかりしているのかなど、採用と同じですけど、フランクにきちんと面談してやっぱりこの人いいなとなる。アスリートの人たちは嘘をついてまで会社に入ろうとは思っていませんし、誠実な方々ですから、本当の素顔のまま拝見できるというのが、いわゆる新卒、大卒の面接と少し違うところでした。ですから、こちらもその面接で勉強させていただきました。

あと3番目ですが、社内社員の活性化。いわゆるそういう人がいる企業といない企業とではずいぶん会社の幅に違いが出ます。その幅って大事ですよ。薄っぺらい会社より人材的に太い会社が大事ですから、会社としてはお一人お一人の社員さんのスキルを上げる、能力を上げる、考え方をしっかりしてほしいという社員教育はしますけど、それで埋まらないのがあるのです。だから、アスリートさんを採用してそこに人材の厚みがでるところが、私どもにとってはありがたいことですし、楽しみや夢が増え社員教育にもそちらでつながると、その誠実さが社員さんのお手本になると。先ほどチヨダウーテさんもおっしゃってましたね、コミュニケーション能力も高いし、粘り強いし、やはりそのようなところが普通に採用されて入ってきた人たちと違う。そのところが、大事かなと思っております。

そして、地域への話題の提供。これはマスコミによる発信等があれば、それによって私どものお客様からも「そんな人があるのだ」とか、中には東京からの問合せもあった。なぜ東京から連絡がきたかという、伊賀出身の方であったためらしいということで、そのようなこともございまして、「そんな社員を雇っているの」というようなことが、テレビ、マスコミで配信される。我々が実はマスコミ出ているのを知らなかつたりするわけです。私はそれでいいと思っていますので、そういう意味であまり制約しないということが大事かと思えます。

【スライド番号5（資料2）】

そしていよいよ私どもが採用させていただいた、脇屋さんというアスリート

の方です。伊賀上野ケーブルテレビと上野ガスでそれぞれ1名ずつ採用させていただいておりして、脇屋さんは29歳。きっかけが、広島県の呉市よりとこわか国体に向けて移住されたのですが、実は伊賀にクレイ射撃場があるのですね。それこそ車で行けば15分くらいだと思いますけれども、広島では2時間かけて練習に行っていたというわけで、そうすると往復4時間で勤務に非常に迷惑をかけるし、制約が多いということです。伊賀の方が練習するポジションが良いというのがあって、取り立てて上野ガスがいいという話ではないのですよね。でも、それはそれでいいではないかということで、三重とこわか国体の強化選手ですから、また田中幹也さんとかに言われてということでしたが、お互いに面談することが大事と考えてきました。その中で、会社勤務は17時20分までしていただいておりますが、年間110日ほどですので、130日くらいは、練習や試合、ワールドカップなど転戦しているわけです。職場のメンバーに当然フォローしていただくようお願いしてありますし、正直な話、脇屋さんはおみえですけど、日数的にいけば0.5人分くらいで考えて会社は判断しております。そして、昨年10月の全日本選手権大会で2位と、今年9月の秋季全国大会で優勝。今のところ東京オリンピックの強化指定選手らしいのですが、まだそれはご本人の活躍によってというところがございます。

【スライド番号6（資料2）】

もう1人は、あとでお話しされるので私の方からはあまり詳しくは紹介しませんが、岐阜国体のボウリングで活躍されていた方で、全日本1位の経験もお有りのような立派な方ですが、今年の4月から伊賀上野ケーブルテレビの方に体協さんのご紹介でお入りいただいたということです。さっそく5月のNHK杯で全国優勝されたということで、我々が逆に「え！」となっておりますし、8月のアメリカの世界選手権には日本ナショナルチームの中から選抜されたということです。サッカークラウドカップは有名なのに、ボウリングはあまり有名ではないのですが、そのような力がお有りの方がめぐり合わせの中で弊社グループの中にお入りいただいたということです。茨城国体も出場されているということですから、ぜひともとこわか国体でもお楽しみいただければと思いますけれども、こちらが社員で、これがご本人さんで、こちらの方が元くノ一の方で、仲良くしていただいて、顔をみても楽しそうにしておりますから、羨ましいなというところがございます。

【スライド番号7（資料2）】

そして、会社としての対応は、皆様から見ますと少し気になるところだとは思いますが、脇屋さんは、明るく素直さ誠実さがあり、梶田さんは粘り強さ、ボウリングですからそのようなところが見受けられますが、会社はですね、全くの手探りです。未だに。出勤、練習時間の考え方につきましては、脇屋さんは出勤を110日にして、できるだけ希望通り練習していただければと思うのですが、土日か勤務後の練習です。クレー射撃は夜できませんので、そこがボウリングと比較して少し実際にハンディですね。

国体が近づいた場合、両選手にはそれなりの配慮をしなければいけない と思っているのですが、1つは給与面ですね。前回いただいていたお給料よりは落ちているとは思っていますけれども、やはり欠勤部分が大きくて私どもとしては、連合三重の傘下のガス労連のちゃんとした組織の組合がございまして、組合にもこのような人を採用すると了解を取らなければならない ということ でございまして。基礎給与等の部分で欠勤はちゃんと欠勤にさせていただかなくては いけないですけれども、賞与面で補っている というところです。住宅住まいにつきましても、十分ではないですが一部補填させていただいています。

旅費規程につきましても、海外遠征への支給が、脇屋さんは大人しくて控えめで、会社は体協あるいはクレー射撃協会のお金で海外へ行っていると思っていたが、自分のお金だと聞いて役員会一同「ええ！」という話になりました。年に3回も4回も1週間海外へ行っていて、自分のお金ということはまずいとなりますが、実はそのような規定がないのです。今のところ内輪の話で恐縮ですが、日当だけはお支払いしようということで、1日1万円弱の日当で、旅費をどうするのか大きな問題を抱えております。私は、やはり上野ガスの看板を背負って行っていただくなら、出してあげたほうが良いと思っていますけれども、それがプレッシャーになるかもしれないし、なんとも言えないですね。しかし、国内の国体クラスの大会も当然考えないといけないのですけれども、実は三重とこわか国体の2年後には旅費はあまりいらぬというような形になるわけですね。それと報奨規程というものがあったのですが、アスリートがランキング全国上位になった場合どうするのかという問題がございまして。そちらもとりあえずこれで行ってみようという形で新しく作り直したというところですが、旅費規程、報奨規程は私自身が十分でないと思っておりますので、選手の方と良くお話し申し上げて、頃を見て役員会にでも上げたいと思っております。手続き上会社としては、いろいろ矛盾が出ますから、そこを企業の方はそ

んな時代じゃないよと、そんなことしているよりもっと幅広くいろいろな人を
受け入れていくのが、企業の社会的使命ですというような説明の中で、受け入
れていただければと思います。

【スライド番号8（資料2）】

そして、最後の項目となってきますが、期待される効果というような形で、
出させていただいております。本当に上述の2名が入ることによって我々グル
ープも話題が豊富になり、それぞれご努力ご活躍していただくと、社員にも日
頃の話題になりますし、目標意識や努力の大切さを示す実例が周りになれば
社員たちも楽なほうへ行きますから、そうじゃないよという楔のようなことで
申し訳ないが、そうしたところが見受けられるということと、やはり刺激が大
きいですね。「また活躍している」「すごいな」とか。そうすると、自分はダメ
でも、子どもとか家族にやらせるケースがございますので、やはりそのような
意味では会社の雰囲気明るくなることも大事かと思えます。

また、彼らのマスコミ、ケーブルテレビ、新聞への掲載によりまして会社の
雰囲気としても大変良くなる。先ほどは、会社の宣伝になるとおっしゃってい
ましたが、宣伝ではなく会社のステータスが上がるという意味ですね。お客様
から見てなど、私どもの会社の評価が少し上がるというようなことです。宣伝
というのは一発で終わるかもしれませんが、評価を上げるということが大事
ということですね。

そして今感じていることですが、やはりアスリートの方々を採用させていた
だきまして、三重県伊賀市における企業の役割を果たしているという充実感。
ささやかに2名の方しか今のところ採用させていただいてないですが、2名で
も十分な充実感を得ているというところがあります。

それと、ここが大事なのですが、彼らの活躍により一喜一憂を共に、少しで
すがというところが大事なのです。ここが非常に大事です。普通を考えてみて
ください。アスリートであれ何であれ、優勝したら誰が一番嬉しいか。本人で
すよね。本人が1番。そして次に嬉しいのが誰ですか。ご家族ですよね。その
次嬉しいのはというと、友達ですよね。会社はどうなるのというと、会社はい
いのです、会社は4番か5番です。それはお金出しているからおかしいだろう
というかもしれませんが、普通の社員さんを見てもわかるではないですか。
嬉しい、悲しいの1番はやはり自分でしょう。今は家族が変わってしまっ
て、2番がスマホになってしまっていますね。スマホが大事。3番はスマホ友

達が大事になっている。その後友達が出て、家族なんて5番くらいになっている。そうすると、社員さんから見た会社なんか6番か7番になっていますね。それから見ても、やはり私どもの社内で、地域であるいは県で、国でご活躍いただいている方々というのは、少しお手伝いさせていただいてその喜びを分けていただければ、ありがたい。そういうことをございますから、あまりアスリートの方に期待するとか、プレッシャーとかお金を出しているなどそのようなことをいう時代では実際ないのですよね。と思っていたいたほうが、私の個人的な発想ですがいいのではないかと思います。

そして3番目ですが、これは大事なことです。経営層としましてはやはり、数字とか利益とか言っていますが、それは後の話です。努力の結果です。社員さんが幸せかどうかということが経営層として大事なのです。よそと合併して、それで社員さんが幸せになるかどうか、大きくなってそれを誰が喜ぶのだというところなのです。ですから、弊社は小さなグループの集まりですけど、社員さんの幸せな人生のお手伝いをさせていただくと、そういう意味ではアスリートさんも社員さんも変わらなくて、それぞれの幸せな人生のお役に立てればということでアスリートさんも社員さんも分け隔てなく応援したいと思っております。

その点をご理解いただいて、私どもは今本日まで歩いてきておりますので、ぜひともとこわか国体におきまして、私どもの応援を通じてご本人あるいは、ご家族の方が幸せになっていただくというところですが、大事なのは、私どもの会社がとこわか国体を通じて、変わることなのです。それが地元を支え、三重県を支えるということなのです。そのような意味で、ぜひともアスリートのご採用をお願い申し上げまして、私のご報告並びに発表とさせていただきます。どうも、ご清聴ありがとうございました。

5 採用選手事例発表①

あづまフーズ株式会社ロジスティック部（レスリング競技）河野隆太氏

おはようございます。私はあづまフーズでレスリング競技をしている河野隆太と申します。本日はこのような機会をいただき誠にありがとうございます。

あづまフーズは菰野町にある会社で、主に生珍味を作っている会社です。居酒屋で人気のたこわさびはあづまフーズが最初に作った商品です。

私はこの制度を使ってあづまフーズに就職し今年で2年目になります。最初の1年目はあまり良い成績は収められなくて悩みながら練習をしていましたが、今年是要領もつかめまして、自分のパフォーマンスが上がり、十分活かせる1年となりました。

あづまフーズでの仕事の内容は、出荷と梱包を担当させていただいております。朝は7時30分に出勤して、17時に退社をいたします。女性が多い職場ですので、主に力仕事を担当して少しでも役に立てるようにいつも頑張っております。スポーツで培ったコミュニケーション能力を十分に発揮して、職場の方や、パートの方たちと協力しながらやっております。また、上司と話しながら、いろいろ指示を出しスムーズに仕事が進むようにと毎日努力しております。私は残業をしてしまうと練習時間が削られてしまうので、残業はほとんどしていませんが、毎日朝7時30分から17時までの勤務をしております。8時出勤なのですが、残業ができない分少しでも早く出勤して、前日の残務の処理や、当日の仕事の準備をすることで、少しでも仕事に影響がないように日々やっております。

練習なのですが、平日は朝5時から30分～1時間程度体を動かして、そこから17時まで仕事をし、そこから朝明高校という職場から近い高校で、高校生に指導をしながら練習をしています。レスリングは格闘技なので、やはり毎日練習し、体を動かしていないと、体力が落ちてしまい成績につながっていかないので、毎日練習させていただいています。土日の使い方ですけれども、土曜日は高校で練習をし、日曜日は松阪で社会人チームがありますので、そこで練習をして、ほとんど1週間休みなしで練習と仕事をやらせていただいております。月に2回ほどは東京で練習をさせていただき、その時の費用などは、三重県レスリング協会から少し負担が出るので、そこは活用させていただいて足りない部分は自分のお金で何とかやっています

試合は、年に4回ほど大きな試合があつて、会社からは試合や合宿の時は特別に休みをいただいて、援助していただいております。

両立についてなのですからけれども、仕事と競技を両立するにあたって、一番に心がけているのはケガをしないこと。ケガをしてしまうと、競技にも仕事にも影響が出てしまいますので、練習や試合の時は必ずケガをしないように心がけております。

もう一つは、競技をしているからといって、仕事を疎かにしないことです。私たちはプロではないので、仕事をしっかりとこなさないとスポーツだけだと思われてしまいます。スポーツだけではないというところを見てもらうために、仕事の時は競技に関係なく仕事に打ち込んでいくことが、僕が心がけていることです。ですから、試合や遠征などが終わった次の日にはなるべくすぐに仕事に戻るようにして、少しでも仕事に穴が空かないように心がけております。将来的には、会社の発展に少しでも役に立てるようにしようと思っておりますが、まだ明確なものが見えないので、これは引退してからゆっくり考えようと思っております。この制度を使って入った選手たちは、引退してからのことを考えて仕事をした方が良いと僕は思っております。今は競技で雇ってもらって仕事をしている立場から、三重とこわか国体が終わってしまうと普通の社員にもどるので、今競技をしている時期に仕事がしっかりできていないと、やはり引退した後に仕事ができない人材になってしまいます。そこを競技をしている選手たちは考えておいた方が良いと僕は思います。

三重とこわか国体まであと2年なのですが、この生活は変えずに今年の成績以上の成績が収められたらいい。東京オリンピックがあるので、12月に行われる天皇杯でいい成績を収めて、東京オリンピックにも出場できるような選手になれるようにします。

最後になりますけれども、あづまフーズの方々は本当にいい人ばかりで、試合や合宿で抜けていても嫌な顔せずにごく応援してくれて、その声に少しでも応えられるように頑張っていきたいと思っております。この制度を使ってあづまフーズに就職させていただいた三重県と、いつも応援していただいている会社に少しでも恩返しができる人材になっていければと思っております。

僕のポリシーなのですが、僕がプロではないのに対して、試合に出るとプロの選手がいるので、プロには負けたくないということが、企業でスポーツをやっている選手の意地で、これは三重とこわか国体が終わるまで変えていかない

と思います。

本日は本当にこのような場を作っていただき誠にありがとうございました。

6 採用選手事例発表②

伊賀上野ケーブルテレビ株式会社技術部（ボウリング競技）梶田ひかる氏

皆さんこんにちは。伊賀上野ケーブルテレビに所属しています、ボウリング競技の梶田ひかると申します。このたびは、このようなお時間をいただきまして、ありがとうございます。

私は、昨年まで競技に関係なく一般の企業に就職していましたが、当時は定時まで勤務をしていたため、思うように練習ができなかったり、練習場までの距離が遠く毎日通うには難しかったり、試合に出場するためのお休みがなかなか取れないため、試合を選んで出場するなど思うように試合に出れず、競技との両立に悩んでいました。

そんな時所属していたチームが解散をすることになり、今以上に競技を続けることが難しい状況になりました。その時アマチュアとして競技を続けるにはどのような選択が良いか考えていました。

当時の監督に相談をしていた中で、一緒にプレーしていた2名選手が、三重県へ移籍することが決まっていたので、トップアスリート就職支援事業を紹介していただき、私の要望をきいて受け入れてくださる企業を探していただき、伊賀上野ケーブルテレビへ入社させていただくことになりました。

現在の伊賀上野ケーブルテレビでは技術部に配属され、競技に専念できるよう会社勤務を15時までとじていただき、しっかりと練習できるようになりました。自宅からボウリング場まで自転車で行ける距離なので、交通機関利用で時間がとられることも無くなりました。

平日は15時から伊賀市にあるサンボウルで3時間ほど練習をしています。サンボウルでは、試合に近いレーンコンディションを作ってくださいなど、実践的な練習が行えるよう協力していただいています。週末は、県内の試合に積極的に参加をし、様々な試合で経験を積むことができるようになりました。三重県はボウリングをしている人の人口も多いと思いますので、様々な人たちと勝負をし、勝ち負けの難しさを経験できるのもすごくいい経験になっています。

また、ボウリング大会の日程は金曜日から日曜日までの3日間で行うことがほとんどですが、試合に前日入りし、現地で練習する時間を含めると、木曜日からお休みができるよう配慮していただき、昨年よりも倍以上の試合に出場できるようになりました。たくさんの試合に出場することで、試合が久しぶりに

なることがなく前回の反省を次の試合に活かせるようになり、昨年よりも成績が総合的に上位で戦うことができるようになりました。昨年から環境が変わったことで、私自身の気持ちにもゆとりができ、さらに上を目指したいという向上心を持ち競技に取り組んでいます。このように伊賀上野ケーブルテレビでは、まず一番に競技のことを考えてくださり、集中できる環境を作ってくださいました。また、ボウリングだけでなく技術部で与えられた仕事を、上司や先輩の教えを守りながら、責任を持って行き、競技と仕事の両立が充実し、メリハリの付いた生活がおくれるようになりました。

また、競技環境を整えていただく以外にも、伊賀上野ケーブルテレビの練習着をつくっていただいたり、ボウリングバックを購入していただいたり様々なサポートをしていただいています。普段、伊賀上野ケーブルテレビのウェアで練習をしていると、地域の方々にお声がけいただくことが増え、すごく嬉しくて、いつも力になっています。

社員の方々が、試合の日程を気にかけてくださったり、頑張れと声をかけてくださったり、業務だけでなく精神的にも支えていただいています。また試合の応援にも来ていただき、実際の試合を見ていただけるとより気が引き締まり自分の自信にもなっております。

そして、今年の成績は、5月に行われたNHK杯で優勝し、国際大会にも派遣していただき、8月に世界選手権へ出場することができました。ですが、NHK杯で優勝しいいスタートができたのに、茨城国体ではいい結果を残せず、つなげることができなかったことが、私のこれからの課題です。国体は1週間ほどの長期の試合になるので1週間いい状態を保つ体力が必要だと感じました。

そのために日頃からしっかりと筋肉トレーニングを怠らずに続けることが重要なので、三重とこわか国体へ向けトレーニングに重点をおき取り組んでいきたいと思います。

三重とこわか国体では、私のボウリング競技も集大成として、全てを出し切りたいと思います。周りの方々に感謝し、いい成績が残せるようにこれからも頑張っていきたいと思います。

このようなトップアスリート就職支援事業にご尽力いただきました皆様、ありがとうございました。

これで発表を終わります。

7 応援企業認定証交付式

三重県地域連携部国体・全国障害者スポーツ大会局 辻日出夫局長から、
応援企業（資料3の70社）を代表して、

住友電装株式会社管理本部副本部長 久志本敦史様

株式会社百五銀行人事部長 荒木田豊様

に認定証が交付された。

8 閉会挨拶

公益財団法人三重県体育協会 理事長 村木輝行

皆さんこんにちは。10時30分からのお時間本当にありがとうございました。

そして、本日発表いただきました4名の皆様本当にありがとうございました。大変参考になるお話を聞かせていただきました。

そして何よりも、本日もご出席をいただきました皆様方には、大変お忙しい中ご出席を賜りましてありがとうございました。

私自身も、長くスポーツの仕事に携わらせていただいております。私の中では、スポーツは無限の可能性があると、こういう風に信じて疑わない次第でございます。三重とこわか国体、三重とこわか大会の開催を契機に益々元気な三重県になる、そのようなことを願ってやみません。

そのような意味でも、本日もご出席の皆様方には、なお一層のご理解を賜りまして、両大会の成功に向けよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。

※下線は事務局による。